



5月の園だより

令和8年4月28日

杉並区立西荻北子供園

園長 須田 なぎさ

生き物と関わる大切さ—友達や先生と出会い、広がっていく子どもたちの世界—

園長 須田なぎさ

新緑の美しい季節となりました。園庭の木々も日に日に緑を深め、子どもたちの気持ちも明るく、伸びやかになっているように感じます。

入園・進級から、まもなく1か月を迎えようとしています。年少うさぎ組の子どもたちは、西荻北子供園での生活にも少しずつ慣れ、先生と一緒に「やってみたいこと」「見てみたいもの」を見付けながら、園生活を楽しみ始めています。年中くま組・年長ぞう組の子どもたちは、進級した喜びを胸に、自信をもって活動する姿が見られるようになりました。

園では、カメの「らんちゃん」をはじめ、園庭にいるダンゴムシやアリ、テントウムシなど、身近な生き物との出会いを大切にしています。生き物が少し苦手だったお子さんも、先生や友達と一緒にそっと見たり、話を聞いたりする中で、「大丈夫かもしれない」と感じ、次第に興味をもって見つめるようになります。

特に入園当初は、不安や緊張から気持ちが不安定になる場面も見られますが、先生と一緒にカメを眺めたり、えさをあげたりすることで、心が落ち着き、表情がやわらぐ様子があります。生き物と関わることは、子どもたちの心を癒し、「安心できる世界」を広げてくれているのだと感じます。

また、生き物との関わりは、一人で完結するものではありません。「みて!」「いたよ!」と友達に伝えたり、先生と一緒に発見を共有したりする中で、子どもたちの世界はさらに広がっていきます。うさぎ組の子どもたちが、すばしっこく動くアリの夢中で捕まえ、誇らしそうに見せてくれた

姿からは、「できた」「伝えたい」という喜びがあふれていました。

生き物と触れ合う中で、子どもたちは「どうすれば捕まえられるのか」「どんなところに住んでいるのか」「何を食べるのか」など、さまざまなことに気付き、疑問をもつようになります。さらに調べてみたり、詳しく知ろうとしたりする姿へとつながっていきます。

また、生き物の動きをよく見てまねをして体を動かしたり、つくって表現したりする姿も見られるようになります。巣やおうち、食べ物を作るなど、遊びはさらに広がっていきます。

このような直接体験から生まれる探究や、豊かな想像力・表現力は、将来の小学校以降の学習へとつながる大切な基盤となります。

生き物との関わり、友達とのやりとり、そして先生との安心できる関係の中で、子どもたちは毎日たくさんのことを感じ、考え、成長しています。一つひとつは小さな経験かもしれませんが、その積み重ねが、「げんきで なかよく よく考えて」生きていく力へとつながっていきます。

これからも職員一同、子どもたちの「やってみたい」「知りたい」という気持ちに寄り添いながら、安心して過ごせる園生活を大切にしていきたいと思っています。

子どもたちの成長をご家庭と共に、見守っていただけたら幸いです。

